

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472400324		
法人名	社会福祉法人 日就会		
事業所名	グループホーム 悠里の郷	ユニット名	さくら
所在地	宮城県亘理郡亘理町吉田字宮前12-1		
自己評価作成日	平成 25年 10月 日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ホームでは月1回の専門医(精神科)の回診があります。また、週1回訪問歯科があり、歯科衛生士による口腔クリーニングやドクターによる治療も行われている。職員は御入居者様の健康管理を毎日行っている。毎月、モニタリング評価会議を実施し、入居者様一人ひとりのケアの見直しを行い、生活援助計画へ繋げている。又、月1回会議を開き、研修報告や行事計画なども共有している。当ホームの内部は床暖房設備になっており、外部にはウッドデッキがあり、庭が広く畑もあり住みやすい環境が整っている。同法人が近隣にある為、いつも協力体制がとれる状態である。当ホームがある亘理町は温暖な気候と水、空気、食べ物がとても美味しく大変住みやすい町である。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亘理町吉田保育所の東、社会福祉法人日就会施設群(デイサービス、特別養護老人ホーム、在宅介護支援センター等)に隣接して「グループホーム悠里の郷」がある。前回に掲げた目標達成計画「理念を見直し、自己評価につなげる」について理念の文言は継続とし、「理念に基づく自己チェック表」を作成し、その4項目について各職員が自己評価する取り組みを行なっている。日頃の取り組み成果(自己評価)が前回よりも下回った項目が多かったのは、異動で変わった職員の素直な視点による絶対評価とみることができる。入居者の自尊心や可能性を伸ばすことに意識をもって傾聴することを大切にしたいケアに取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 悠里の郷

)「ユニット名

さくら

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの理念一覧をすべてのスタッフに配布している。又、基本理念を玄関や事務所に提示してスタッフの意思統一を図り、内部研修でも入居者様に対する対応を自己評価する機会を設けている	目標達成計画にそって「理念に基づく自己チェック表」(4項目)にまとめた。この表を用いて各職員は、何パーセント達成できたかを振り返り自己チェックしている。入居者の「その人らしい、尊厳ある生活」を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや芋煮会等の行事を通じ、近隣の住民、老人会、青年会等と地域の一員として交流している	ホームに面する2軒は職員の家ということもあり、自然な形で地域とつながっている。夏祭りは青年会との共催で大勢の住民が参加している。「この頃、散歩にでて来ないね」など住民から声掛けされる光景もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等で学ぶ機会はあるがまだ地域の人々に向けて認知症の方の理解や支援はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設長や区長、民生委員、役場福祉課、御家族様代表の方々と会議を行い、その意見を介護サービスに反映している。	2ヶ月毎の奇数月に交わされる情報は、すぐ近くの仮設住宅の状況についてが多い。メンバーからは、離職者の多いことを心配して「表彰して職員にやる気を」などの提言があるなど、相互の有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議等で情報交換の場を設ける等、協力関係を築いている。	町の担当課職員は毎回運営推進会議に出席しており、県や町の情報を伝えている。本調査にも同席し、現在進行中の包括システム構築の中で、地域で暮らせる重要性について考えていることを聞くことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	県が計画する実践者研修に毎年2名参加して学ぶ機会を設けている。又、研修報告などで情報共有も行っている。玄関等の施錠も含め、身体拘束は行っていない。	入居者の尊厳を損なう拘束の弊害について、職員は理解している。「そのまま」など、動きを制止する言葉が拘束になることもあることに気をつけ、常に外に出たがる入居者については見守りを重視し、言葉掛けに工夫するなど拘束しないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を受け、内部研修や研修報告などで報告し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で成年後見人制度について学ぶ機会はある。又、まもりーぶを利用されている方が1名、青年後見人制度を利用されている方が1名おられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず御家族様が理解、納得されるまで十分な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、御入居者様、御家族様がいつでも意見、要望を表せることができるよう環境を整えている。	意見箱への投函はない。家族が来訪時に聞くようにしているが、むしろ家族から「何かありますか」「足りない物」など聞かれることが多い。入居者の変化時に、職員が受診同行をして感謝され、信頼づくりになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者はいつでも職員の話しを聞き必要際には意見の反映を行い、職務が円滑にできるようにしている。	ケアに関する提案が多く、モニタリング会議で出されている。それらの意見は、誕生会にホールケーキを出すことや地元に詳しい職員がドライブコースの情報を提供するなど、入居者の具体的ケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況等を把握し、職員の配置を行う等、仕事の意欲向上へとつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員個々の実績が反映されるように人事考課制度などを行って人事育成を行っている。又、研修の機会も設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他、宮城県グループホーム協議会に参加しており、研修や懇談会に積極的に参加し、同業者との交流の機会を設けている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御入居者様の不安や要望を聞く機会を作り、それを受け入れ個別対応することにより、本人の安心と信頼関係に繋げるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は御入居者様と共に御家族様からの相談や心配事などをお伺いすると同時に随時、電話連絡や面会時などに話す機会を設け、御家族様の安心へと繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様の希望に応じ、支援すべき事を見極めて対応している。面会調査はなるべく本人の自宅にお伺いして生活の様子を知るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般、食事等共にし、御入居様と一緒に過ごして生活共有出来るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に十分な情報交換を行う等接する時間を設け、信頼関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様、知人等が面会に来て頂いたり、町内、外をドライブしたり関係が途切れないように支援して行けるように努めている。	入居前からの新聞購読や飲料の宅配を継続したり、見慣れた海岸やスーパーへ行くなどの支援をしている。新しい入居者が馴染めるよう愛用品を持参してもらったり、職員が入居者をつなぐ役割などした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様同士の関係を把握し食席の変更や生活リハビリ、交流を持つなどして孤立しないで生活できるように心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも必要に応じ近況報告や相談等を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援できるように努めている。すべての希望を聞くのは困難であるが、できる限り意向に沿うように努めている。	入居者によっては、遠慮して話せないであることを職員は理解している。自分から話さない入居者への対応について、職員間で話し掛けることを共有・実践することで本人が持っていた胸のうちを知ることができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査時に生活歴を伺ったり環境等を確認するなどして、職員間で情報共有しこれまでの生活が送れるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御入居者様一人ひとりの身体精神状況を把握して、個人に応じた自立を促すことができるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	検討用紙を作成し、全職員の意見や御本人、御家族様の意見を反映させ毎月、担当者とのモニタリング会議にて話し合いを行っている。	一人の入居者に対し、各職員が記入したモニタリング表をユニットのリーダーがまとめ、計画書に反映させている。家族の「出来ることはさせて」の要望でモップ掛けや料理の盛り付けを計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、課題や気づきがあった場合、その都度、申し送りや解決に向けて話し合いを行っている。又、申し送りノートを活用し情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様等の状況に応じ柔軟に対応できるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、それを積極的に活用できていないのが現状である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様等の希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じ職員からかかりつけ医に情報提供を行っている。御家族の都合により通院を支援する事がある。	月に1回、協力病院専門科の往診があり、週1回は協力歯科医院の訪問治療を受けている。法人看護師と、夜間の嘔吐の際に対応指示をもらうなどの連携ができており、入居者・職員の安心が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師は勤務していないが、入居者様の異変時には同法人の特別老人ホームの看護師に連絡し、適切な看護を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には御入居者様の介護状況情報を提供している。早期退院に向け医療機関と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、要介護度5の方が2名、要介護度4の方が2名おります。重度化について御家族様の希望を受けているが、終末ケアについては看護師がいないため十分なケアができていないと感じている。	重度化しても常時医療が必要な状態でなければ、家族と話し合っって対応を検討することを文書化している。これまでに看取りの経験はあるが、未経験職員への教育には難しさを感じている。生活の延長線上にある「重度化・看取り」を介護の視点で受容している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署にて救急救命講習を受講しており実践力を身につけている。2、3年に1度再研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災訓練を行っており、その内1回は地域の区長や婦人防火クラブ、ボランティア様に参加して頂き、協力体制を築いている。	訓練は夜間想定で実施している。主体的に行動する夜勤者以外の職員の防災意識の低さに懸念が残る。役割等の話し合いはないが、地域住民の参加がある。次の訓練では、消火器を実際に使うことにしている。	職員の初期行動が重要であり、入居者の安否を左右することを再認識していただき、全職員の訓練を重ねられたい。避難した入居者の見守りを住民にお願いするなど期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に入浴や排泄介助などは御入居者様一人ひとりに合わせた言葉かけや介助を行い、個人の情報の厳守とプライバシーを配慮し支援している。	食器拭きやジャガイモの皮むきなど、その人の能力を発揮してもらったり、入居前からの習慣(自分で茶を煎れて楽しむ・テレビを見る)を大切にすることでその人らしい生活を尊重している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居者様一人ひとりが思いや希望を表しやすいように声掛けを工夫したり思ったことを話やすくなるような雰囲気づくりに配慮しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御入居者様の生活を守りながらその人らしい生活希望に沿って支援できるように意識しながら介助行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみは清潔に配慮し、服装は御入居者様が以前から気に入って着ていたものを普段着ていただいている。行事や外出などの際には御本人様に希望を確認しながらおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の際は御入居者様にテーブル拭きや飲み物の準備などをお手伝いをして頂き、行事や誕生会などの際には御入居者様の希望したメニューなどを提供して楽しみながら食事できるよう工夫している。	地元の郷土料理「はらこめし」は、入居者に人気のメニューである。誕生日の希望には刺身や海苔巻きがある。おやつでビタミンの摂取やコレステロールを考えてオリーブオイルにするなど健康にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人のメニューを取り入れ栄養バランスが悪くならないように配慮している。又、好みや体重管理等、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。御本人様の希望する飲み物で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後声掛け行い、支援を要する方には職員が口腔ケアを行い清潔保持に努めている。又、希望者には週1回、歯科衛生士が口腔クリーニングを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記入、活用し一人ひとりのペースや身体機能を考慮しながら排泄の習慣、自立に向けた支援を行っている。	尿量から判断してパッドの使い分けなどにチェック表を活用している。状態に合わせて夜間のみポータブルを利用したり、話し掛けを多くすることで失禁が減った例もあり、それぞれに合った適切な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	予防の為、牛乳やヤクルト等を摂取したり、リハビリ体操、散歩したりして軽めの運動をしている。又、排泄チェック表を確認しながら必要に応じて下剤使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者一人ひとりに合わせて午前、午後の対応を行っている。毎日入浴を希望される方もおり、可能な限り対応している。	入居者が好むのは「一番風呂」のようだ。1人で入る人、長時間の人、介助にお気に入り職員を選ぶ人もいる。それぞれに合わせて支援している。着替えの際には、皮膚の変化や打撲がないかなどに気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜の熟睡時間を個別の記録に反映させ、睡眠パターンを把握している。冬など希望される方には湯たんぽを使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服用状況、服薬効果、副作用を理解して対応している。又、体温、血圧、顔色、症状など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御入居者様一人ひとりの生活歴に配慮し、御本人様の能力を十分に引き出せるように役割を持っていただいている。(掃除や食器拭き、料理など)又、御入居者様1人ひとりの楽しみ(ドライブ、レクリエーション等)を考慮して実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩などしたり希望によりお花見、食事、買い物、ドライブなど行っている。又、御家族様が気分転換に御入居者様をつれて外出されている。	年間計画のほかに、入居者から「出掛けたいなあ」との要望を受けて、ドライブなどに出掛けることが多い。菊人形展や桜、藤棚、海岸、空港など毎月のように出掛けている。五感の刺激や気分転換になる外出の効果を理解しており、適切な外出支援をしている。	



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様用のお小遣いを持っている方は数人いる。大切さは理解しているが現在はほとんど事務室でお預かりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望があればいつでも電話できる。又、年賀状や手紙のやり取りも支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう配慮している。又、御入居者様の不快感を与えないように環境を整えている。	食堂から見えるウッドデッキの先の花壇にある地域のボランティアが植えたパンジーが、秋の終わりを和ませてくれる。畑の収穫は入居者も楽しんだ。食堂では、入居者の動きのリズムや雰囲気や溶け込み、違和感のないよう職員の動きに気遣っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やフロア、談話ソファ、和室など共有場所で一人ひとりが静かに安心できるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具を持ち込んでもらうことで、今までの生活環境が継続できるよう、また心地よく過ごせるように工夫している。	整理されてさっぱりしている居室が多いユニットと自宅そのままのように家電や家具などが並ぶ居室が多いユニットになっている。夜勤者は1時間ごとの巡回と物音に気をつけることで安全に気をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	御入居者様ができることを見つけ出し、引き出しながら自立ができるよう支援している。居室には出来る限り混乱を招かないように表札を設置している。		

平成 25 年度

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	
法人名	社会福祉法人 日就会
事業所名	グループホーム 悠里の郷 ユニット名 はぎ
所在地	宮城県亶理郡亶理町吉田字宮前12-1
自己評価作成日	平成 25 年 10 月 15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成25年11月13日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当ホームがある亶理町は温暖な気候と水・空気・食べ物がとても美味しく大変住みやすい街である。当ホームでは同法人の特別養護老人ホームが近隣にあり、看護師と緊急時等協力体制が整っている。また月一回の専門医(精神科)のDr回診や年一回の歯科検診、週一回の訪問歯科の口腔ケア、治療(希望者)をうけている。・毎月モニタリング評価会議を実施し利用者一人ひとりのケアの見直しを行い、生活援助計画へと繋げている。・当ホームでは内部は床暖房設備や居室、トイレの十分な広さが確保されており、外部は庭が広く、畑もあり緑の多い等住みやすい住環境は整っている。
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亶理町吉田保育所の東、社会福祉法人日就会施設群(デイサービス、特別養護老人ホーム、在宅介護支援センター等)に隣接して「グループホーム悠里の郷」がある。前回に掲げた目標達成計画「理念を見直し、自己評価につなげる」について理念の文言は継続とし、「理念に基づく自己チェック表」を作成し、その4項目について各職員が自己評価する取り組みを行なっている。日頃の取り組み成果(自己評価)が前回よりも下回った項目が多かったのは、異動で変わった職員の素直な視点による絶対評価とみることができる。入居者の自尊心や可能性を伸ばすことに意識をもって傾聴することを大切にしたいケアに取り組んでいる。
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 悠里の郷

)「ユニット名 はぎ」

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	GHの理念一覧を全てのスタッフに配布し、内部研修会でも確認している。又基本理念を玄関や事務所に提示して実践へと繋げている	目標達成計画にそって「理念に基づく自己チェック表」(4項目)にまとめた。この表を用いて各職員は、何パーセント達成できたかを振り返り自己チェックしている。入居者の「その人らしい、尊厳ある生活」を支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや芋煮会等の行事を通して、近隣の住民や児童館、老人会等と地域の一員として交流している	ホームに面する2軒は職員の家ということもあり、自然な形で地域とつながっている。夏祭りは青年会との共催で大勢の住民が参加している。「この頃、散歩にでて来ないね」など住民から声掛けされる光景もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	研修等で学ぶ機会はあるが、まだまだ地域の人々に向けて活かしていないのが現状である		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、施設長や区長、民生委員、役場福祉課、御家族様代表の方々と会議を行い、その意見をサービス向上へと活かしている	2ヶ月毎の奇数月に交わされる情報は、すぐ近くの仮設住宅の状況についてが多い。メンバーからは、離職者の多いことを心配して「表彰して職員にやる気を」などの提言があるなど、相互の有意義な会議になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて情報交換の場をもうける等協力関係を築いている	町の担当課職員は毎回運営推進会議に出席しており、県や町の情報を伝えている。本調査にも同席し、現在進行中の包括システム構築の中で、地域で暮らせる重要性について考えていることを聞くことができた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について正しく理解しており、玄関の施錠を含め身体拘束行為を行っていない	入居者の尊厳を損なう拘束の弊害について、職員は理解している。「そのまま」など、動きを制止する言葉が拘束になることもあることに気をつけ、常に外に出たがる入居者については見守りを重視し、言葉掛けに工夫するなど拘束しないケアをしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修を受け、内部研修会などで全職員に報告、説明し虐待防止に努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等にて成年後見制度について学ぶ機会があり活用できる環境にあるが、利用されている方はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関するものは必ず御家族様が理解、納得されるまで十分な説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置しており、御入居者様、御家族様がいつでも意見・要望を表わせるような環境を整えている	意見箱への投函はない。家族が来訪時に聞くようにしているが、むしろ家族から「何かありますか」「足りない物」など聞かれることが多い。入居者の変化時に、職員が受診同行をして感謝され、信頼づくりになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者はいつでも職員の意見や提案を聞ける体制にある	ケアに関する提案が多く、モニタリング会議で出されている。それらの意見は、誕生会にホールケーキを出すことや地元に詳しい職員がドライブコースの情報を提供するなど、入居者の具体的ケアに活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員個々の実績、勤務状況等を把握し、職員の配置を行う等仕事への意欲向上へと繋げている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた外部での研修や、定期的な内部の勉強会等を実施している。又、人事考課制度も取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での交流の他、宮城県グループホーム協議会に参加しており、研修会等に積極的に参加し、同業者との交流の機会を作っている		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御入居者様の不安や要望を聞く機会を作り、それを受け入れ個別対応する事により、本人の安心と信頼関係に繋げるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時は、御入居者様と御家族様からの相談や心配事などをお伺いすると共に、安心へと繋げていけるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様等の希望に応じ、支援すべき事を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事等行動を共にし、御入居者様と一緒に過ごし共有するよう心掛けている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に十分な情報交換を行う等接する時間をもうけ、信頼関係が築けるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	美容室等、御本人様の馴染みの場所への外出にて、関係が途切れないよう努めている	入居前からの新聞購読や飲料の宅配を継続したり、見慣れた海岸やスーパーへ行くなどの支援をしている。新しい入居者が馴染めるよう愛用品を持参してもらったり、職員が入居者をつなぐ役割などした。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	御入居者様同士の関係を把握し食席や生活リハビリ等を配慮し、良好な関係が築けるよう支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了した方でも必要に応じ、近況報告や相談等を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御入居者様一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握し支援できるよう努めている。すべての希望を聞くのは困難であるが、出来る限り意向に沿うよう支援している	入居者によっては、遠慮して話せないであることを職員は理解している。自分から話さない入居者への対応について、職員間で話し掛けることを共有・実践することで本人が持っていた胸のうちを知ることができた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実態調査時になるべく自宅に訪問し生活環境等を伺い、これまでの生活歴を把握した上で入居後の生活へと繋がるよう支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御入居者様一人ひとりの状態を把握し、個別に応じた環境で生活出来るよう支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時に御本人様、御家族様の意向を聞き反映している。また、毎月のモニタリング会議にて全職員の意見を反映させ担当者との話し合いを行っている	一人の入居者に対し、各職員が記入したモニタリング表をユニットのリーダーがまとめ、計画書に反映させている。家族の「出来ることはさせて」の要望でモップ掛けや料理の盛り付けを計画書に盛り込んだ。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を記録し、気づきがあった場合はその都度話し合い、解決へと繋げている。また申し送りノートを活用し情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様、御家族様等の状況に応じ、柔軟に対応出来るよう努めている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、それを積極的に活用できていないのが現状である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様、御家族様等の希望の医療機関を利用して頂いている。必要に応じ通院時にかかりつけ医に情報提供を行っている。又は御家族様の都合や要望で通院の支援も行う事がある。	月に1回、協力病院専門科の往診があり、週1回は協力歯科医院の訪問治療を受けている。法人看護師と、夜間の嘔吐の際に対応指示をもらうなどの連携ができており、入居者・職員の安心が確保されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に現在看護師は勤務していないが、御入居者様の異変時には同法人の特別養護老人ホームの看護師に連絡し、適切な看護を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、御入居者様の介護情報提供している。早期退院に向け医療機関と情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームには看護師がいない為、重度化、終末期に向けホームとして出来る限りを御家族様と話し合いを行い、方針を共有している	重度化しても常時医療が必要な状態でなければ、家族と話し合っ対応を検討することを文書化している。これまでに看取りの経験はあるが、未経験職員への教育には難しさを感じている。生活の延長線上にある「重度化・看取り」を介護の視点で受容している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が消防署にて救急救命講習を受講しており、実践力を身に付けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っており、その内1回は地域の区長や婦人防火クラブ、ボランティアに参加して頂き、協力体制を築いている	訓練は夜間想定で実施している。主体的に行動する夜勤者以外の職員の防災意識の低さに懸念が残る。役割等の話し合いはないが、地域住民の参加がある。次の訓練では、消火器を実際に使うことにしている。	職員の初期行動が重要であり、入居者の安否を左右することを再認識していただき、全職員の訓練を重ねられたい。避難した入居者の見守りを住民にお願いするなど期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	御入居者様一人ひとりに合わせた言葉掛けを行い、入浴やトイレへの声掛け等では誇りやプライバシーを損なわないよう支援している	食器拭きやジャガイモの皮むきなど、その人の能力を発揮してもらったり、入居前からの習慣(自分で茶を煎れて楽しむ・テレビを見る)を大切にすることでその人らしい生活を尊重している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御入居者様一人ひとりが思いや希望を表わしたり、自己決定できるよう支援している			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	御入居者様の生活ペースを守り、その人らしさを優先、希望に沿って支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御入居者様の個性に応じた髪型や身だしなみの支援を行っている			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備の際は御入居者様に野菜の皮むき、盛り付け等手伝って頂き、また食事でも御入居者様と職員と一緒に食べる事で食事が楽しみになるよう支援している	地元の郷土料理「はらこめし」は、入居者に人気のメニューである。誕生日の希望には刺身や海苔巻きがある。おやつでビタミンの摂取やコレステロールを考えてオリーブオイルにするなど健康にも配慮している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士と相談しメニューを作成している。また好みや体重管理など、一人ひとりの状態に合わせた支援を行っている。お茶の時間もメイバランスやコーヒーなど御本人様に合わせて提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している方には毎食後声掛けを行い、支援を要する方には職員が口腔ケアの支援を行い清潔保持へと繋げている。希望者には週1回歯科衛生士が口腔ケアを行っている			



自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入、活用し一人ひとりの排泄パターンの把握に努め支援している	尿量から判断してパッドの使い分けなどにチェック表を活用している。状態に合わせて夜間のみポータブルを利用したり、話し掛けを多くすることで失禁が減った例もあり、それぞれに合った適切な支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日便秘予防の為、牛乳・ヤクルト・ヨーグルト等を摂取して頂いている。また必要に応じ下剤を使用し対応している。毎日、体操や軽い運動なども行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は2～3日に1回とある程度決まっているが、必要に応じ対応している。また御入居者様一人ひとりの希望を優先し入浴支援を行っている	入居者が好むのは「一番風呂」のようだ。1人で入る人、長時間の人、介助にお気に入り職員を選ぶ人もいる。それぞれに合わせて支援している。着替えの際には、皮膚の変化や打撲がないかなどに気をつけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御入居者様一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は御入居者様一人ひとりの服薬の効果、副作用ともに理解しており、常時症状の変化の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御入居者様の生活歴を把握し、庭の草取りや裁縫、食器拭き等、毎日の役割や楽しみへと繋がるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩など気軽に出掛けられる環境にある。季節を感じられるようなドライブや外食などにも出掛けている。急な外出の要望でも出来るだけ対応している。	年間計画のほかに、入居者から「出掛けたいなあ」との要望を受けて、ドライブなどに出掛けることが多い。菊人形展や桜、藤棚、海岸、空港など毎月のように出掛けている。五感の刺激や気分転換になる外出の効果を理解しており、適切な外出支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様了解のもと、金銭管理についてはお小遣い程度の金額を金庫にてお預かりしているが、希望する方には金銭を所持して頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望時にはいつでも電話を使用できる体制にある。また手作りの年賀ハガキの支援を行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの飾りつけ等で心地よく過ごせるよう配慮している。また御入居者様に不快感を与えないようテレビの音やカーテン等の配慮を行っている	食堂から見えるウッドデッキの先の花壇にある地域のボランティアが植えたパンジーが、秋の終わりを和ませてくれる。畑の収穫は入居者も楽しんだ。食堂では、入居者の動きのリズムや雰囲気や溶け込み、違和感のないよう職員の動きに気遣っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂やフロア、談話ソファ、和室の掘りこたつなど、環境を整え一人ひとりが自由に過ごせる共有空間を確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れ親しんだ家具を持ち込んでもらい、御本人様が居心地良く過ごせるよう支援している	整理されてさっぱりしている居室が多いユニットと自宅そのままのように家電や家具などが並ぶ居室が多いユニットになっている。夜勤者は1時間ごとの巡回と物音に気をつけることで安全に気をつけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ、居室には表れを設置し、出来る限り混乱を招かないよう配慮している		